

提言第4号 気管切開術後早期の気管切開チューブ逸脱・迷入に係る死亡事例の分析

事例4

< 事例概要 >

- ・ 40 歳代男性。脳膿瘍、重症肺炎の患者。副腎皮質ホルモン薬使用中。
- ・ 死因は、縦隔気腫、緊張性気胸による心肺不全。死亡時画像診断（Ai）有、解剖有。
- ・ 人工呼吸器管理下で、気管挿管の長期化により、集中治療室で気管切開術（逆U字切開）を施行。気管壁と皮膚の縫合有。気管切開チューブと皮膚の縫合固定無。
- ・ 逸脱当日の人工呼吸管理：CPAP ※、FiO₂ 0.4、自発呼吸有。
- ・ 気管切開術 7 日後、予定していた気管切開チューブ交換を実施。その 2 日後、車椅子移動時に気管切開チューブが 1cm 程度抜け、気管支鏡下に気管切開チューブを再挿入。再挿入 の当日夜間に一般病棟に転棟後、ベッドアップし、経腸栄養施行。約 1 時間後に気管内吸引 をした。吸引後 10 分で分時換気量低下アラームが鳴り、その 1 時間後に患者の発声あり。次第に呼吸苦を訴え、皮下気腫が出現。低換気となり、気管切開チューブの挿入を試みるが気道確保できずに、呼気リーク上昇後約 2 時間で死亡。

※ CPAP：持続陽圧換気